

■ 巻頭言 / 編集委員長 三宅 成司郎 .....	1
----------------------------	---

## ごあいさつ

■ 会長就任のご挨拶 / 定兼 廣行 .....	2
■ 会長退任のご挨拶 / 増田 征二 .....	3
■ 副会長就任のご挨拶 / 岩崎 泰典 .....	4
■ 同窓会の副会長に就任して / 池田 良穂 .....	5

## 特集：あの人は今

■ 航海の安全と乾舷の歴史 / 田口 賢士 .....	6
■ まだまだやりたいことが山程ある / 田中 紀男 .....	9
■ 定年その後 / 外山 嵩 .....	11
■ 資格試験を受けました / 姫野 洋司 .....	13
■ ゴルフボールが教えてくれる漂流・漂着ゴミの源 / 細田 龍介 .....	18

## ◆表紙絵◆

「散歩道」

岡田 博雄

(大学 12 期)

## ◆表紙デザイン◆

平岡 良介

(大学 49 期)

■ 鷗朋会第7回総会報告 .....	20
■ 理事会報告 / 平成17年度会計報告 .....	21
■ 平成17年度 海洋システム工学科 博士・修士論文ならびに卒業研究テーマ .....	22
■ 会員録 update .....	24

## ■ 編集後記

「鷗朋」編集委員 岸 光男(大学 25 期)竹田 太樹(大学 30 期)三宅 成司郎(大学 30 期)  
野口 利仁(大学 33 期)池田 和外(大学 35 期)有馬 正和(大学 37 期)  
中谷 直樹(大学 45 期)奥村 英晃(大学 46 期)



編集委員長 三宅 成司郎(大学30期)

このたびは、前任者の岩崎初代編集委員長のご指名により、2代目鵜朋編集委員長という大役を拝命することになりました。ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

岩崎前編集委員長のもと、「同窓会に関する良質な情報をタイムリーに発信すること」を目標に掲げて、同窓会誌「鵜朋」の編集を行ってきました。目標の達成/未達という編集委員会の成果の一つとして、「発信した情報の対価としての会費納入率アップ/ダウン」という実質面に跳ね返ってくることを肝に銘じながら、編集委員がこの5年間真摯に編集作業に向き合ってきました。

5年間の会費納入率の推移を見ますと、平成13年度の納入率は55%でしたが、5年後の平成17年度には66%と、その間山谷はありましたが着実に伸びています。「これなら、会費を納入しても良いなあ。」と、同窓生の皆様方に思っていただけの誌面作り・皆様の知りたい情報の提供ができたのではないかと考えます。この数値に甘んじることなく、更に会費納入率がアップするような誌面編集に努めます。

今後は、従来からの目標でありました「同窓会情報のタイムリーな発信」はもとより、以下に示す点を新たなキーワードとして取り組んでいきたいと考えています。

- ・情報の双方向化・情報交換の場
- ・新旧技術情報の充実

鵜朋は、大学を中心として最新の情報や古き懐かしい情報を発信することで、世代にまたがった同窓生を結ぶハブ基地のような存在だと思います。そのため、一方通行的な情報発信にならないよう、情報の双方向化を目指します。例え

ば「お悩み相談」というような欄を設けて、会員各位相互の英知でその悩みを解決するような、情報交換というキャッチボールができる場を提供する等々。

技術系学科ですので、やはり最新技術の動向には常にアンテナを張り巡らせているべきですし、また最も関心のある情報ではないかと思えます。また、それに対比する旧来技術も興味を惹くところですので、今後は、これら新旧技術を紹介するようなことも検討していきたいと考えています。

しかしながら、会員各位からの自由投稿が基本であることに違いはありませんので、「こんな原稿を掲載して！こんなテーマを企画せよ！」という問い合わせやご命令をたくさん頂けることを希望します。投稿しやすい・投稿してみたいような誌面、気楽に読める会誌を作っていきたいと考えていますので、編集委員会に対して何なりと要望下さい。

さて、鵜朋第9号の特集は、「あの人は今」ということで、退官された先生方にその近況を語っていただいたり、最近まとめられている話題を提供いただいたり、現役時代と変わらない活躍ぶりをご披露いただいております。手が焼ける学生さんや何かと面倒な大学運営から解放された後の清々とした生の声を聞くことができるかもわかりませんので、是非ご一読下さい。この特集は今後も企画していきたいと考えていますので、「私の近況もみんなに伝えたい。」という方々のご寄稿を心よりお待ちしております。

同窓会誌「鵜朋」が、より一層大きく羽ばたいていけるよう編集委員一同および鵜朋会事務局が一丸となって奮励努力して参りますので、今後とも会員皆様方のご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

# 会長就任のご挨拶

大学15期 定兼 廣行



本年4月29日開催の第44回理事会において、皆様のご推薦により会長職を務めさせていただくこととなりました。同日午後開催の第7回総会においてご挨拶の機会をいただきましたが、改めて本誌で会員皆様にご挨拶申し上げます。初代の藤井様、保田様、千種様、山路様、大野様、そして増田前会長に引き続いて7代目となります。歴代の会長は、教室と親密な連携の下に、恩師のご退職記念行事の開催や教室行事の支援を適宜、適切に進めてこられました。感謝と敬服の他ありません。このような重要な職に推薦いただきましたが、私は母校勤務から転出後も大学に在職しており、いわば狭い社会で活動してきましたので、視野が狭いことを心配しています。反面、最近の大学をとりまく環境変化の事情は少し分かっていると言えるかも知れません。このようなことを踏まえて何かお役に立つことができれば幸いです。

われわれの同窓会は、学科創設時の造船1期から今春卒業の大学54期まで1690余名(内約460名は通信不通と物故者)の会員から成っています。そして既に年齢層も80歳代から20歳代まで、青年から、壮年、熟年、老年までの広い範囲にわたっています。このような年齢構成からも本会がようやく歴史ある同窓会の体裁を備えつつあると言えます。会員の増加と年齢層の拡がりには、ややもすると会員意識が弱くなり勝ちですが、本会の会費納入率を見ますと約6割を維持しており、これ

は驚異的な数字です。会員の皆様が会の運営を温かく見守ってくださっている現れであると思います。いっぽう大学は、新入生18才人口の減少、行政府の財政事情、社会貢献への期待、価値観の変化などによって、大きな組織・運営の変革を余儀なくされています。この変革への教室の対応については、学内理事の先生方がニュース誌「鵯朋」に解説しておられるとおりです。そして「海洋システム学科と研究科海洋系専攻」の先生方が払ってこられた的確な判断と学内対応によって、有能な同窓生を輩出する母胎が確保されたことに敬意と感謝を申し上げます。

同窓会は、「会員相互の親睦」並びに「教室との親密な連携」を会の目的としています。この目的を果たすために、比較的頻繁にニュースを発行して会員相互の意志疎通と連携を図り、また恩師のご退職記念等は会誌で特集されてきています。今後もこのような印刷媒体は上の目的を果たすために、また時代の変遷を知るために大切な役割を担っています。これに加えて、前会長が「鵯朋」新生号(平成13年8月発行)で述べておられた、KamomeやE-mailによる情報交換等も進みつつあります。私事で恐縮ですが、来年3月に停年となりますので、いま我が家でメールアドレスを取る準備をしています。これを同僚や同級生に話したら、少し驚きの眼で見られました(勿論職場では持っています)。しかし「遅れている」分だけこれからは楽しみだと思っています。

最後になりましたが、鵯朋会が会員皆様にとりまして、また教室にとりまして意味ある会でありますよう微力ですが、力を尽くしたいと思います。ご支援をよろしくお願いいたします。

# 会長退任のご挨拶

大学10期 増田 征二



私は2006年4月29日の第44回鷗朋会理事会で会長を退任することになりました。就任が2001年の4月ですので丁度5年間勤めさせていただきました。5年前といえますと、海洋システム工学科になってから入学された方々が卒業し

てこの同窓会に入る時期に当たり、同窓会の名前もいつまでも「船舶工学科同窓会」ではおかしいと、議論になった頃です。議論百出しましたが、前会長の野村様を中心になって纏めた結果「鷗朋会」が決まり、その後の総会から私が会長を勤めさせていただくことになりました。

この5年間の出来事でのお目出度いことと言えば、田口先生の勲三等瑞宝章の受章があり、それを祝う会を教室と同窓会が一緒に行ったことです。また寂しいことは、岡田先生、姫野先生、細田先生の3教授が同時に退職されたことがあります。しかし、何と言っても一番大きな変化は大学の改革で、大阪府立大学も大阪女子大、大阪看護大学を統合し、新生大阪府立大学として生まれ変わったことです。大学は国公立といえども独立採算制を求められ、独自性を出しながら存続していく必要があります。このような時期に、この同窓会の役員が若返り、定兼先生が会長に池田先生と岩崎さんが副会長に就任されたことはまことに心強い次第です。大学の変革に伴って、同窓会のあり方も変えるべき点、残すべき点を考えていただくのに最適な方々だと思います。

私は会長の任期中に、実務は全て学内理事にお任せし、これと言って活躍したわけではありませんが、それでもこの伝統ある同窓会を維持・発展させ次の世代に引き継ぐと言う責任だけは感じておりました。しかし、この度その責任からも開放されました。またひとつ「役割喪失」です。現役でご活躍の皆さんは、いやでもいろんな役割を引き受けておられます。サラリーマンであれば、設計、製造、営業など仕事上の役割、また課長・部長・役員など職制上の役割が付いて回ります。しかし、いったん現役を離れるとこの役割が突然なくなります。これが「役割喪失」です。これは一種のカルチャーショックで、役割に没頭しておられた方ほどそのショックは大きいようです。役割を喪失すると、毎日何をするかは自分で考えなければなりません。日頃から、自分と向き合って、自分なりの生き方をしてきた方には、むしろ歓迎すべきことですが、役割に流されてきた方にとっては「役割喪失」は一種の恐怖です。会長や相談役としていつまでも会社にしがみつき老害を及ぼしているのは、この恐怖から逃れるためだと思います。私も現在、徐々に「役割喪失」に遭っております。幸いなことに、突然ではなく徐々に起こっているのでそれ程ショックはありませんが、それでも一抹の寂しさを感じます。しかし、これはこれからの時代を担っていく若い人への引継ぎとして大切なことで、今後はOBとして一歩引いてやるべき役割を見つけ、少しでも世の中に役に立つ生き方をしていこうと思います。この「鷗朋会」もこれからは一会員として参加し、温かく見守って行きたいと思います。

永い間の理事および会員の皆様のご協力に対し厚くお礼申し上げます。

# 副会長就任のご挨拶

大学 20 期 岩崎 泰典



去る4月29日に開  
かれました第44回理  
事会におきまして、  
皆様の推薦を受け副  
会長の大役を勤めさ  
せて頂く事になりました  
大学 20 期の岩崎  
でございます。

私は、大学卒業後  
現在まで一般商船の  
基本設計に 32 年間  
携わっております。ま

た、同窓会が「鷗朋会」に生まれ変わりました 2001 年から同  
窓会誌「鷗朋」の編集委員長を勤めさせて頂きました。大学  
と会員各位とを繋ぐメディアとして、遠方の又は大学の敷居  
が高く感じられている諸氏に、同窓会誌やニュースレター  
を通して、大学の現状や同窓生の近況をお伝えすべく若い  
編集委員方の頑張りを頼りに勤めてまいりました。

ここ数年は、機会があり我が母校で「設計」を非常勤で教  
えさせて頂いております。私の僅かばかりの経験と昔大学  
にて先生方にお教え頂いた覚えを思い出しながら、我  
が息子や娘より若い世代に船舶を通した設計と共に、技術  
者の端くれとして僭越ながら物造り(ハート)を教えるべく努

めております。同窓予備軍の学生達は、我々の時代では考  
えられなかった物質的に豊潤な、また多量の情報が氾濫す  
る環境の下、幅広い考えを持つ可能性を秘めた若者達で  
す。会員各位と若い同窓予備軍とでは生業環境も異なるで  
しょうし価値観も異なるでしょう。しかしながら、海洋システム  
工学科が「海と船」を扱う学科であるにも関わらず最近の卒  
業生達が造船のみならず自動車産業等々に多く就職でき  
るのも、やはり「造船」のよき伝統である革新(チャレンジ精  
神)と協調(纏め上げる)の精神が学生達に育まれているか  
らでしょう。

同窓会活動では学校との親密な連携を図ろうとすると、と  
もすれば先生方の負担が大きくなります。私は 1948 年生ま  
れで、まさに団塊のまっ只中の世代です。少子化と言われ  
る現在では考えられないくらい多数の友人達が現役で活躍  
しております。物理的には還暦が手招いている準シニアで  
しょうが(同世代の友人が電車で若い女性に席を替わって  
もらいガッカリしていました。因みに私は未経験です。)、精  
神的には若いつもりです(酒を呑めば18歳)。先輩諸氏と  
同窓予備軍の、また大学の先生方との橋渡し役として、「鷗  
朋会」がより発展し「会員相互の親睦」がより図られる様に、  
定兼会長の基、池田副会長と協力して、微力ですがお役に  
立ちたいと考えております。理事諸兄、先輩諸氏をはじめ  
会員各位のご協力ご鞭撻の程宜しく御願い致します。

# 同窓会の副会長に就任して

大学 21 期 池田 良穂



同窓会である鷗朋会の副会長に選出され、たいへん名誉に思うと同時に責任の重さに身が締まる思いです。

同窓会活動へのかかわりを振り返ってみると、まず、船舶工学科同窓会の時代に、長年にわたって実質的な事務局としてお世話をさせていただいた定兼先生が神戸商船大学に移られたのに伴って、前副会長の奥野先生と一緒に同窓会のお世話をすることになったことから始まっています。まず、理事会を年 2 回のペースで開催して理事会の活性化を図ると共に、学内の同窓生全員(教員および大学院生)が、何らかの同窓会活動に携わることに努めることにしました。次に、会員管理や会誌の発行には、膨大な日常作業が絶え間なく続くことから、同窓会専属のアルバイトを雇うことを提案して、幸い理事会にも認めてもらいました。そして、会員管理のコンピュータ化すること、会員との接触回数を高めるために年 2 回のペースでニュースを発行することとし、その企画を立てました。会員管理と理事会対応は奥野先生が、ニュースの発行は私が責任をもって行うことで作業を進めました。

年 2 回のニュースを送送する郵送代は、会員数が多いだけにばかになりません。しかも、その頃の会費の納入率は 50%程度と低迷していました。同窓会の性格上、会費未納の方にも情報は提供することとしているため、1 人の会費で 2 人分のニュースの印刷費と発送費を負担しなければなりません。そこでニュースを年 2 回のペースで定期的に発行することで、会費納入率を 70%程度まで高めることをまず第 1 の目標として、こ

の新しいニュースの企画を進めました。郵送料を節約するため、郵送料の安い定形郵便(A4 用紙の三つ折)で送れる形のものとし、50g までという重さの制限からページ数も決まりました。そうして昭和 63 年 3 月に、新しいスタイルの同窓会ニュース「ふね」第 12 号として発行され、以来、年 2 回のペースをほぼ守って発行が続けられています。編集方針については、私から岸先生、岩崎理事に編集責任者が変わるに従って、センスのよい体裁と内容に進化を続けています。このニュースこそ、会員に各種の情報を伝える唯一の手段なので、今後も内容の充実に向けて行きたいと思っています。また、IT 技術の向上によって、同窓会からの一方的な情報伝達だけでなく、双方向の情報交換も可能になりつつあります。本同窓会にも、姫野名誉教授の発案で作られた「kamome」というメーリングリストがありますが、必ずしも活発には機能していないのが現状です。同窓会のホームページの充実も含めて、インターネットを通じた会員の情報交換の活発化も図って行きたいと思っています。

同窓会の財政状況については、まだ危機的な状況ではないものの、当初考えられていた毎年 2 回のニュースの発行費用と、3~4 年に一回のペースで開催の総会およびそれに合わせた会誌(名簿付)の発行費用の積み立てという目標が、若干怪しくなりつつあるように思われます。現在のところは、会費納入率をさらにアップさせることで、年会費を上げることなく同窓会運営をしていくべく幾つかの対策をとっています。

会員各位におかれましても、会費の納入へのご協力をお願いするとともに、同窓生に会った時には「同窓会ニュースは来ていますか?」、「会費は払っていますか?」と一声かけていただければと思っています。



## 航海の安全と乾舷の歴史

田口 賢士

学生時代、私は、「乾舷」のことを船舶設計の講義から学び、教員になってから、それを教えることになって以来、19世紀イギリス社会が、どのような動機で普遍的な乾舷の決定方法を編み出し、やがて、それが国際基準になっていった環境に関心を持ちつづけた。

大学を退職して20年になる。その間、1989-1994の6年間、ISO(国際標準化機構)のTC8(第8技術委員会:船舶および海洋技術)の業務にたずさわった。ヨーロッパでの、年次総会の帰路には、ロンドンの関連組織を訪問したのちに、海事関係の記録を求めて、大英図書館、ロイツなどで資料を閲覧することにしていた。その結果、大英図書館で、BPP (the British Parliamentary Papers)に辿りついた。1870年代、英国では、多発する海難の防止のために満載喫水線関係法令の整備の最中であり、英国船舶の安全にもっとも関係のある満載喫水の決定とその表示について世論が沸騰していた。1873年議会は特別委員会 Royal Commission on Unseaworthy Ships(1873-1874)を指名した。この委員会は、船級協会が、船倉の深さに対応して乾舷を与えるそれまでの方法に固執したものの、これに替わる方法の検討にも道をあけ、さらに、予備浮力 reserve buoyancy を満載喫水線を決めるための決定因子として推した。委員会は、また、船主に船体中央に乾舷尺を表示させ、載荷終了時の乾舷をログに記載させるとともに、その数値を税関吏または領事に届けさせるよう提言し、技術資料の蓄積を図った。

明治維新(1868)から3年後に、新政府は岩倉使節団(1871-1873)を米欧に派遣した。派遣の目的の一つは、使節団に欧米の文明を学ばせ、その知見を日本の近代化に役立てることだった(注1)。使節団は、イギリスでは鉱業と工業を精力的に視察した。彼等は、造船所では、工程と管理組織を観察し、大規模製造業での分業の効用を正しく評価している(注2)。

イギリスは、産業革命第1期(1770-)の機械化によって、近代資本主義社会を実現した。これにつづく、産業革命第2期(1830-)では、大量生産方式(製品の規格化)と運輸・通信技術の進歩に支えられた高度資本主義時代をひらいた。19世紀中ごろまでに、穀物法、航海条例など、前世紀からの重商主義諸政策は排除され、ここに、自由貿易体制が確立された。岩倉使節団のイギリス訪問の時期は、産業革命第3期(1880-)の世界貿易市場の拡大期にあたる(注3)。産業の成長を支える多様な新技術は、数学、物理、化学の理論の体系化によって得られた。職業教育の課題が、工業化社会に存在した。造船では、鉄と蒸気の可能性を追求するために、設計技術の近代化が必要であり、人材の養成のために、科学教育が考案されつつあった。民間の軍艦建造者は、フランスの技術教育に比べて、イギリスのそれは、劣っていると認識していた。海軍は、工場に併置する職業訓練学校をいくつか試みた。しかし、イギリスの経験主義に固執する海軍省と造船所のスタッフは、施設内での科学教育

に無理解であった。それでも、海軍はいくつかの学校を海軍造船所に設け、最終的に、Royal Naval College が創設された。当時の職業教育は、徒弟制の慣習を温存しており、職業訓練の成否は、国の初等・中等教育における基礎教育の充実にかかっていた。Royal Naval College は、イギリス市民には狭き門であったが、多くの外国人学生を受け入れて

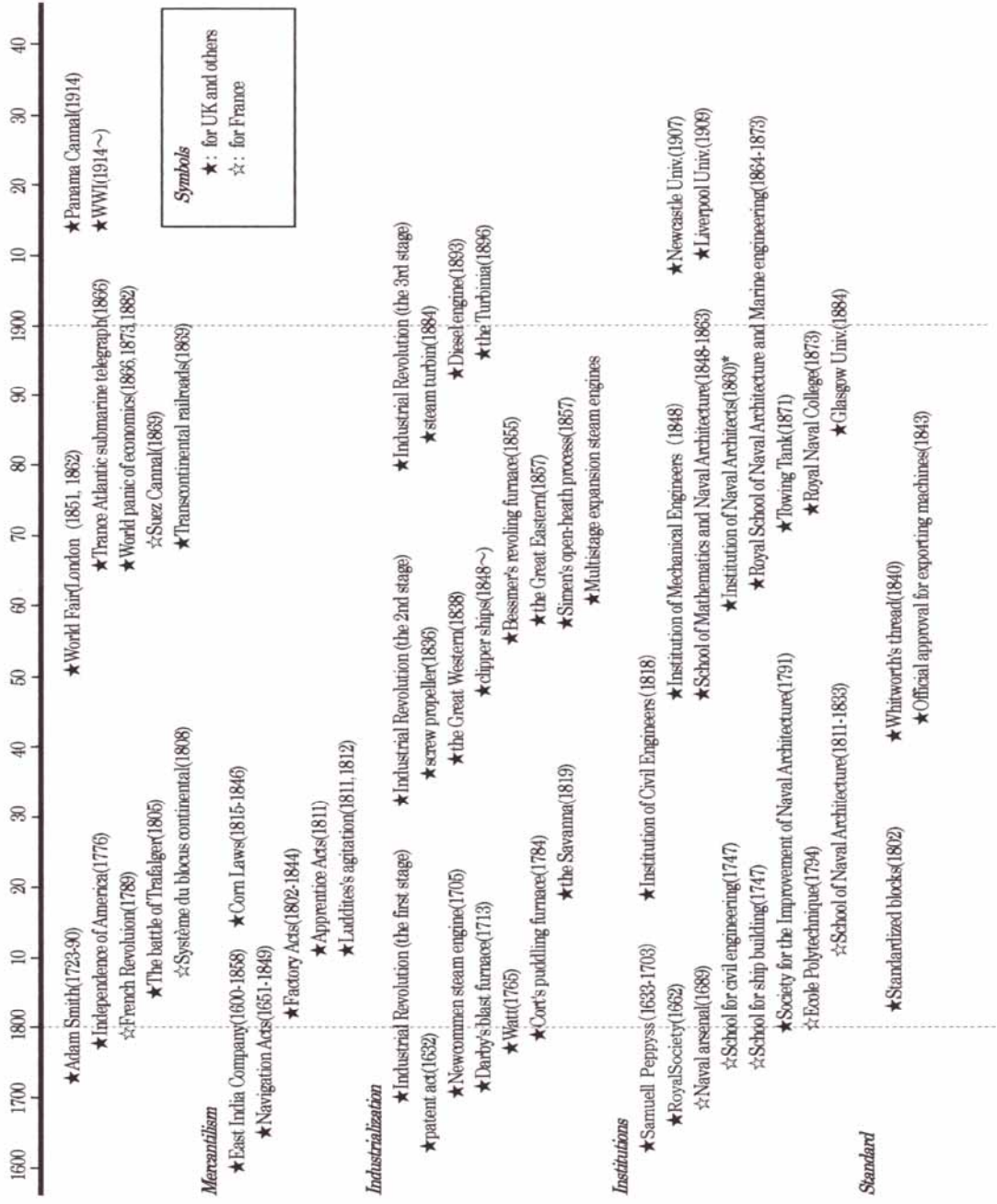
いた。教員と学生は、研究の成果を土木学会で発表した。1791 年に、造船技術者の協会が設立されたけれども、この協会は短命であった。1860 年に Institution of Naval Architects が創設された。INA は、1870 1874 の間に、INA で論じられた主な課題として、乾舷と Froude の模型実験を挙げている。

- 注1:** 欧州今日ノ富庶ヲミルハ、一千八百年以降ノコトニテ、著シク此景象ヲ生セシハ、僅カニ四十年ニスクサルナリ。千八百三十年間ニ汽船鉄道ノ便始メテ起コリシハ、欧州ノ貿易、一変ノ運ニテ、英国ノ人民、首(はじめ)ニ此レニ注意ヲ生ジ、政府ハ衆ノ渴望ニ迫ラレ、製作ノ芸術ヲ開クベキ、教育ヲ興サン義ヲ起セシハ、今ヲ隔ル僅カニ三十四年前ヨリセリ、此時欧州諸国ハ、仏国ヲ除クノ外ハ、未タ此等ノ用意モナカリキ。(1841 年万博の英国の出品を見て)初メテ自国工産ノ拙ナル所以ヲ悟リ、種種ニ考量ヲ加ヘ、仏国ヲ模倣スル悪弊ヲ去リ自国固有ノ風致ヲ研出シ、再度五十五年仏国ノ博覧会ニオイテハ、大ニ觀ヲ改メ、コレヨリ仏国ヨリ工産輸入ノ数モ減スルニ至レリ。日本ノ民力、始メテ鎖国ノ禁ヲ解カレ、欧州ノ文物ニオケルハ、殆ド欧州諸国力、仏王路易(ルイ)ノ光華ニ心酔セシキノ如クニ、自国固有ノ價ヲ荒怠シ、争フテ欧州ニ模倣スルハ、此博覧会以前ノ迷霧ヲ蒙ルト謂ウモ、不可ナルナカラシ。(米欧回覧実記、岩波文庫より)
- 注2:** 船ヲ造ルハ、一匠工ノ能クスル所アラス、造船場ニ設クルニ、若干場宇アリテ、各其業ヲ分カツ、一ミナー門一科ノ職人、集マリテ一船ヲ構エナス、故ニ場中ニ出入シ、身ヲ終フマデ、船の造構ハ何様ナルヲ弁識セサルモノノミナリ、全船ノ造構ハ、図引寮ニテ定ム、此ノ寮ノ人ハ、皆船図ヲ熟知シテ、船状雛型ヲミテ、造船ノ理ヲ学フ、然レドモ工業ノ術ヲ問ヘハ知ラサルナリ、総テ製作場ニハ、図引キ肝要ナルコト、人体ニ腦アルカ如ク、工業ノ綱領トナルナリ、造船ノ工ハ、其業広大ナルヲ以ッテ、理宜シク然ルヘシト人ミナ信スヘシ。分業益分カレ益多クシテ、諸器益精緻ヲ致ス。故ニ図引キノ学ハ、小学普通ノ科ニオキ、皆人之ヲ学フ。(米欧回覧実記、岩波文庫より)
- 注3:** 英国ハ商業国ナリ、国民ノ精神ハ、拳ゲテ之ヲ世界ノ貿易ニアツム、故ニ船舶ヲ五大洋ニ航通シ各地ノ天産物ヲ買入レテ、自国ニ輸送シ、鉄炭カヲ借り、之ヲ工産物トシテ、再ビ各国ニ輸出シ売り与タフ。欧米列国ノ工産ニ志スモノハ、其製品ノ元品ヲ、英国ノ市場ニ就イテ求メサルヲ得ス。(米欧回覧実記、岩波文庫より)

次回では、満載喫水線の決定理論の開拓に功績のあったロイツ船級協会の Samuel Martell の記念講演(A Review of the History of the Load Line Question,1886)を解説する。

以上





# 資格試験を受けました

姫野 洋司



## 1. 無知ほど怖いものはない

この歳(64歳)になって、恥ずかしながら、何か資格試験を受けてみようという気になりました。退職教授の肩書きとしては、工学博士であり大阪府大の名誉教授でもあるので、申し分ないのですが、さて自分には何が出来るのかと自問してみると、船舶関連の狭い技術分野の解説くらいしかできないし、持っている資格といえば、車の普通免許と防火管理者の資格くらいなもので、これでは、一般の人様にこれこれが出来ますと言えるようなものは、何もありません。と自戒の念と、若干の寂しさを感じていたのです。

これまで、管理者として培ったジェネラリストとしてではなく、何かのスペシャリストとして、社会と関わりながら人様のお役にも立ち、今までの経験も生かしながら、自分に可能な程度の努力で手に入る、加えてほんの少しのお小遣いが入ればなお良い、そんな資格はないものかなと、軽い気持ちで探し始めました。虫の良い話です。

ところがどっこい、そんな甘い考えでは世の中通用しないことが、すぐに分かりました。当たり前ですね。

皇學館か国学院大学の短期コースに入学して、神主の資格を取る。これは僕が、2,30年前から考えていたことでした。義兄が神社をやっていたことと、古事記を読むのが好きで、神楽笛も吹いたことがあるので、定年後はやってみたいなどは思っていました。しかし、1 昨年の足の動脈血管手

術後、正座で座ることが出来なくなって、残念ながら断念。神職は、あくらを組んだ状態からすっと立ち上がる、そんなこと出来る訳ない！

・Viola 抱えて音楽大学入学。音感悪い、音程悪い、4 拍子のアレグロで 16 分音符の旋律弾けない、トリル出来ない。通る訳ない！

## 世の中、そんなに甘くはない！

・情報処理技術者試験(14 種類もある)、中小企業診断士、技術士、公認システム監査人、P マーク(個人情報保護管理) 審査員、ISMS(情報セキュリティ管理システム) 審査員、ISO9001(品質)・ISO14001(環境) 審査員、IT コーディネーター、Microsoft・Cisco・Oracle などベンダーの民間資格 etc.

## うーむ！色々あるなあ！

どれも難しそうで、簡単には手が出ないなあ。とまあ、そんな感じで、「資格」という 2 文字を頭の片隅に置きながら数ヶ月間過ごしておりました。その間、先輩格の数人の友人の意見を聴いたり、同年輩のシニアの方々のライフスタイルを見聞きすることも幸いしてか、徐々に資格取得の目標を絞り込んで行きました。

そうしてたどり着いた目標が、ISMS(情報セキュリティ管理システム)の審査員資格でした。これは経産省管轄の財団法人日本情報処理開発協会(JIPDEC)が認定するものです。ISMS 認証制度は、企業が自社の事業所で整えた情報セキュリティの管理体制を、JIPDEC が認定した審査機関が認証

審査するもので、審査に通ると ISMS (ISO 27001/JIS Q 27001) の認証が発行されます。審査員はその審査をチームで担当する訳です。

もっとも、審査員資格者は、審査だけをする訳ではなくて、受審企業にあっては自社の情報セキュリティ管理体制の構築を担当するし、IT 企業だと他社のコンサルタントの仕事もやるし(自分がコンサルした組織の審査は不可)、多いのは、啓発のための社内外の講演だそうです。そのため、審査員研修コースの参加者はほとんどが ISMS 取得を目指す企業の担当者か IT コンサル企業の人たちだそうです。そして、審査員資格も審査員補、審査員、主任審査員の3つのレベルに分けられています。研修コースを合格して、最初に登録申請するのは審査員補で、3年ごとに経験を積み上げ格が上がる仕組みになっています。

僕が惹かれたのは、その審査員補でした。「補」で良いじゃないか。大手企業が一度り ISO27001 を取得すれば、いずれは、中小企業にもその流れは来るでしょう。ISO9001(品質)や 14001(環境)の流れと同様です。その中で、自分も中小企業の人たちと交わりながら IT コンサルや啓発話しをすることで、多少なりともお役に立つ機会もあるだろう、という期待でした。審査員補で十分な訳です。

目標は定まった、期待は膨らんだ、気持ちも軽くなりました。しかし、またしても、世の中そんな甘いものではありませんでした。

2006年2月頃でした。ISMS 審査員の研修は、40時間以上と定められています。JIPDEC 認定の研修機関は 15社ありますが、そのほとんどは会場が東京に集中しています。そのうちの NTT ソフトウェア(株)が3ヶ月に1度程度大阪で実施する研修コースに狙いを定め、直近の4月24-28日実施のコースを受けてみよう、決めました。

ISMS 認証は、昨年10月にほぼ同様の ISO27001 が発効し、日本ではその JIS 化が検討されている最中で、同じ番号の JIS Q 27001 の発効予定は4月頃となっております。それまでの ISMS の審査員や新たな合格者は、現行の ISMS (Ver.2.0)と ISO27001 の相違点(差分という)の研修を半日程度受ければ ISO 審査員に移行できるとの情報は流れて

いました。

受講者数が増えるかどうか微妙だな、もう少し様子を見てみるかとゆっくりしている間に日が経って、3月24日、開催の1ヶ月前になりました。そろそろ申し込みをしようかと、NTT ソフトウェアのホームページ(HP)を明けてみてビックリ!

**「研修コースの受付終了」の文字!**

**ええっ! ありゃーっ! (ガックリ)**

**みんな駆け込みで申し込んだのかなぁ?**

**駆け込みしても意味ないのになぁ。(;><)**

**仕方ない、次の7月の研修までお預けやな。**

しかし、開催までまだ1ヶ月もあるのに、早々と20名限度のコースが満員受付終了となることに合点がいかず、その事務局に mail で聞いてみました。

「1名、追加で何とかありませんか?」

この厚かましさは、留学や国際会議の海外旅行で身に着けた習性なのです。先方の答えにまたまたビックリ!

「申し込み者が0なので取りやめました。」

ワッハッハ! そうか。みんな JIS 化が済むまで様子見やったんや!

「5月下旬に改めて開講しますので、それにお申し込み下さい」

それ以後、毎日のように NTT ソフトウェアの ISMS 研修コースの案内 HP をチェック(チョッとやり過ぎですね)、幸いなことに、3月29日になって、5月29日-6月2日大阪会場で開催予定の研修コースの案内が HP に載りました。もちろんすぐに申し込みましたよ。受付け mail が来て、その後4月下旬に参加証の様式やら受講料の案内がパスワード認証付きで送られてきました。受講料 28 万円余りは、支払期限が7月11日であるのに、早々と振り込みました。

気持ちはルンルン。内容はどうやら ISO 27001 のようだが、JIS Q 27001 はまだ発行されていないので、従来の ISMS (Ver.2.0)のままなのか、どうなるか分からないけれど、まあ、良いか。乗りかかった船だからと、少し安心しておりました。

その時点で、東京の事務局のW君とは、何通かのmailで友達状態になっており、彼は僕のHPを見てコメントまでしてくれていました。

**ところがどっこい、またまた世の中はそんなに甘いものじゃない！**

実のところ、僕はそれまでに ISO 27001 はもちろん、従来の ISMS(Ver.2.0)でさえ、その日本語訳の条文を読んだこともなかったのです。知っていたのは、HPなどで散見される ISMS 手法の解説用のページだけでした。リスク評価を使うとか、P(Planning)、D(Do)、C(Check)、A(Action)のサイクルであるとか、情報セキュリティ基本方針を作るとか、そんなアバウトなことしか知らなかったのです。

最後の日に試験がありますよ、受講中の態度も採点の対象になりますよ、だから、受講中は「ハイ、ハイ」と手を上げて質問したり、答えたりと、その程度のことしか頭に入っておりませんでした。そんな訳で、何とかイケるのではないかと、安心すらしておりました。無知ほど怖いものはありません！



## 2. 七転八倒、悪戦苦闘

5月29日(月)9時、堺筋本町の近くのビルの一室で5日間の研修コースが始まりました。受講者は予想に反して僅か6名。自己紹介で、僕以外の全員が、企業内でISMSを担当しているかその経験者の様子でした。

**あっりゃーっ！ ガツーン (><)**

**どうやら場違いな所に来てしまった！**

配布資料は、

・5月20日に発効した JIS Q 27001 ISMS の実践のための

要求事項 (ISO 27001 の直訳) 54 頁厚さ 5mm

・同じく 5月20日発効の JIS Q 27002 ISMS の実践のための規範 (ISO 17999, 近々 ISO 27002 になる予定) 138 頁厚さ 1cm

・K 先生の用意した、説明用 Power Point

資料と演習用資料、厚さ 3cm 余り

の 3 部で、全部で厚さは 5cm ほど。

**再び、ガーン (><) 場違いな所に来てしまった！**

K 先生から、この研修は JIS Q 27001 に基づく最初の研修なので、差分研修を受ける必要がないこと、5 日目の午前までは、講義と演習の組み合わせで進めること、5 日目の午後に試験があり、100 点中 70 点以上が合格ラインであること、研修中の態度も評価される旨の簡単なイントロダクションがあって、研修が始まった。

5 日間の研修内容は概ね次のようなものでありました。1 日目: JIS の演習と講義、2 日目: 管理策 A5-12 の演習・講義、不適合条項の特定演習、3 日目: 管理策 A12-15 の演習・講義、不適合条項演習、4 日目: 審査計画書作成演習、2 チームに分かれてのロールプレイ型演習 (不適合の発見と発表)、ロールプレイ演習 2 (不適合事項報告書、審査報告、是正処置等)、コース全体の復習、5 日目午前: ロールプレイ演習 3 (最終会議)、審査の復習演習、審査員登録申請の説明、5 日目午後: 試験 2 時間、アンケート記入など、でした。時間は 9 時開始、午後 7 時半過ぎ終了、休憩時間は、昼食時 40 分、その他は 1 時間半に約 10 分程度あるだけでした。

**講師も受講者もへとへと！これはきつい！**

**受けるんじゃなかった (><)**

講義や演習のやり方は、大学の講義や一般の講習会などと違って、まず演習から始まるのでした。つまり、予習して来なければ意味がない。あるいは、経験者であることを前提にしているわけです。

たとえばこんな感じです。

演習「情報セキュリティとは何か？」

答えは、例えば、JIS の定義項目から「情報の機密性、完全性及び可用性を維持すること。さらに、真正性、責任追跡性、否認防止及び信頼性のような特性を維持することを含めても良い(JIS Q 27002:2006)」

### ウェーっ！場違いな所に来てしまった (><)

法律の勉強とよく似ているのだそうです。規則の条文の解釈と事例研究なのです。物事のアバウトな理解を得意としている僕にとっては、晴天のヘキレキ、青空に突然の雷！あたまをガツーンとやられた感じでありました。

一日目で、企業で ISMS を計画・確立するための方法論がほぼ終わり、2, 3 日目は、具体的な方策 (= 管理策 = control の和訳) に入りました。話題は主として、組織、情報資源、人的、物理的管理策、さらに、情報技術の話題として、暗号、通信、運用管理、アクセス制御、開発・保守、インシデント(事故対応)、事業継続管理や法規制順守の話で、僕にとっては多少分かりやすい部分でもありました。中でも、公開鍵暗号を用いた電子署名や電子認証の話題は興味深いことではありましたが。

管理策と実際に適用した文書や記録の不適合を発見する例題では、やはり、正確性を要求されました。例えば、「管理策 AO.O.Oでは、OOOということになっているが、記録では、OO×となっており、整合していない」などの厳密な記述を要求されます。

### (かなんなぁ)こんな研修受けるんじゃなかった (><)

地獄の研修の間、唯一の楽しみは、支給されるお昼の弁当でした。一日目は幕の内、2 日目はうな重、3 日目は散らし寿司。毎日変わるご馳走！しかし4日目は幕の内、5日目はうな重かと期待したら、また、幕の内でした。まぁ、良いや。普段、おにぎりやアンパンで済ませている僕にとっては、豪華判でした。

さて、3 日目から A, B の 2 チームが審査側と受審側に分かれてディベートする、ロールプレイ型演習です。想定企業は、これからインターネットビジネスを展開しようとしている企業です。その ISMS 認証審査時のやり取りを模擬する訳で、これは結構面白かったです。僕以外の全員がこの審査の経験者らしくて、しっかりした物言いと態度で対応していましたが、僕自身はちゃらんぼらん、口から出任せの対応でした。例えばこうです。

審査員「御社は、経営企画担当の取締役が ISMS の責任者になっていますが、これでどのようにして、人・物・金の経営資源を出せるんですか？」

僕「実は、経営企画担当の取締役は、社長の娘婿でして、いつでも社長の同意は取れるんですわ！」(笑い、失笑、笑い)

4 日目の最後に、全体の復習があった。K 先生は Power Point のページをめくりながら、簡単に要点を復習している。僕たちは必死で、蛍光ペンでマークする。明日の試験にはここが出るに違いないと。しかし大変だ。マークした箇所だけでも 100 個は下らない。その夜、必死で分厚いテキストに、辞書のように索引カードを貼り付けた。試験前のがり勉はあまり効果がないと判っているのだけれど、わらをもすがりたい気持ちでした。

5 日目の午前中の演習は上の空。午後 1 時過ぎ、いよいよ試験開始。

### うえーっ！ 2, 30 もある分量！ えらいこっちゃ！

1 問につき 5 者択一の問題が 2,30 問(1 問 1 点)、残りは文章で解答する形式。これが大量にあります。必死で書いていきましたが、腕が疲れ、字が思い出せない、時間をかけて考えたいのに時間がない。最後の問題の半分くらいで時間切れとなってしまいました。

### はぁーっ、終わった。 (><)

自己採点では、書けた分から思い過ごしの間違い分を差し引いて、合格点の 70 点ギリギリかなという感じでした。36

年間の教員時代は学生諸君に気安く試験をやって来ましたが、こんなにしんどい思いは、実に46年前の入学試験以来で、必死の受験でした。

**やはり、世の中、甘くはなかったぞ。**

その後、皆で名刺の交換をして、遠方から来た人は帰り、残りのUさん、Y君、H君たちと一杯やろうと近くの中華料理店に行きましたが、4時ではお店は開いていなくて、隣の喫茶店で、コーヒーで一杯やりました。皆、晴れ晴れとした顔してるなあ。僕はむしろ落ち込みつつありました。

### 3. W 杯日本チームと掛けて



僕の ISMS 受験と解く。その心は、奇跡に頼るしかない、ベンベン。

K 先生は、遅くとも2週間後には結果の通知をしますとおっしゃっていたのになあ。まだ通知が来ない。

やっぱり、落ちたかなあ。この歳で、記憶力がどんどん弱くなっていつているのに、受験だなんて、無謀やったんやなあ。世の中、そんなに甘くはないよなあ。何人かの友人にも、受験することを言ってしまったしなあ。落ちたらどんな風に言えば良いかなあ。恥ずかしいなあ。笑いでごまかそうとしても、顔が引きつるよなあ。うーん情けないと、相当落ち込んでしまいました。

そろそろ2週間後になろうとする木曜日の晩、mail の一つに、NTT ソフトウェア事務局の W 君からのがあった。

曰く、「連絡が遅れ、誠に申し訳なく、」

中略

「姫野洋司様は合格されております。」

後略

その文字面をじっと見つめていました。見る見るうちに文字がぼやけて、僕は恥ずかしながら泣いておりました。この頃涙もろいんです。

**はあーつ、良かった。**

安堵と嬉しさで、しばらくの間、放心状態に任せておりました。

**やっぱり、世の中は 甘いところもあるもんやな (^^)**

W 杯日本チームに奇跡は起こらなかったけれど、僕には奇跡がやってきました。有難い話です。もったいないことです。

今、この原稿を書いている机の上に、正式な合格証明書があります。今後の手続きは、「審査員補」の登録申請で、申請書の審査にパスすれば登録手続きに入り、JIPDEC から審査員補の認定証と認定カードが交付されるはずで

す。しかし、まだ最後の落とし穴があるかもしれません。経歴の中で、情報技術分野に関して4年以上、そのうち情報セキュリティ分野で2年以上の経験を必要とする点です。

これまで、学科のサーバーの管理をやったり、総合情報センター長として情報セキュリティ分野の経験もあるので、経歴の点ではクリアするかなあとは思いますが、ISMS 申請では詳細な記述をしなければなりません。また、その経験は「最近のものであることが望ましいです」というあたりがあります。申請書は、慎重に、正確かつ詳細に記述した上で、元の所属長(工学研究科長=O 先生)の推薦書と共に提出する必要があります。

またまた、世の中の厳しさを思い知らされるドンデン返しがあるかもしれません。

えっ?何ですって?

「ISO の審査員補になったらいつ頃から仕事があるんですか?」

**そんなもの、無いない!**

**世の中、そんなに甘くはないですよ (^^)**

**終わり**

## まだまだやりたいことが山程ある

田中 紀男

私はこの5月に80歳になった。大阪府立大学には昭和25年から40年間、大過なく勤めさせて頂き、平成2年に無事定年退職してからもう16年になる。その間大学は大きく変身した。大阪府立大学は法人化し、南学長によると世界に通用する高度研究型大学を目指している。看護学研究科を含む大学院大学になった。私達が学生の頃は想像も出来なかった総合リハビリテーション学部も出来た。年金法、国民健康保険や介護保険というすばらしい制度があるが、運用はまだこれからで私達が真剣に考えなければならない大きな問題である。医学は5年前の教科書が使えないほど進歩しつつあると聞いたが、学問体系も大きく改革することだろう。明治維新のとき今の官僚制度が出来、日本は画期的な近代国家に変身した。その功績は大きい。が、昨今の官僚の横暴振りから見て、彼らの考えた教育基本法の改正を含む教育改革が果たして成功するかどうか甚だ疑問である。改革しなければならない問題であるのは確かだ。偏差値が教育を歪めているというが、果たして偏差値が犯人か。偏差値の高い人だけが良い研究が出来るとは思わないが、偏差値の低い人が良い研究が出来るとは到底思えない。わが国には40年以上も無事故である新幹線のような世界に誇れる技術が多い。また、とかく非難ばかりされるがNHKの番組は格調が高く是非残しておきたい文化だと思っている。

戦前にはハンセン病は感染するとして隔離され、多くの患者が苦しい生活を余儀なくさせられた。仕方の無いこととして片付けられる問題ではない。看護や介護は学問かと議論する前に、これこそ私達の幸福生活のためには極めて大切な問題であり、生きた学問というべきでしょう。近畿大学水産学部でマグロの養殖に成功した。これはすばらしい研究だと私は思う。戦後、多くの犠牲者を出した遠洋漁業は鯛・鮭・えびなどの養殖で、私達の食生活は一変した。京都の鴨川と大阪湾に注ぐ川を比較して、大阪の民度の低さに驚かされる。政治の問題などといわないで、早く大阪の川をきれいにし、瀬戸内海を養殖魚場にするのは私の夢であり、これこそ大阪府立大学の仕事かも知れないと思っている。大阪湾を綺麗にし、利用しようとする研究が始められていると聞いて頼もしく思っている。研究といえば難しいことばかりではない。食料問題は人類の最も大切な問題であり、特に日本にとっては重要な問題である。東南海地震が最近の大きな話題であるが、地震は100年1000年という長い期間での予測のために絶えざる資料の蒐集が必要な地味な学問である。津波や洪水の問題と共にわからないことばかりではあるが被害が大きいだけに、政府はもっと研究を推進すべきことと思われる。建築基準法は絶えず変えられているが、もともと官の指導が無理で、官に権限を持たせすぎると、昨今のような手抜きや詐欺が起りかねない。日本は明治以



来の義務教育が成功したといわれているが、これからは研究も大切で、そのためには高価な設備と地味な努力が必要である。法人化しても十分な予算を計上することにより、府立大学が高度研究型大学に変身できることを期待したい。最近、研究に意欲にある学生が、とくに女子学生に多いのは心強い限りである。

私が大学に入学したのは昭和22年であり、戦後間もない為か、食うのがやっとで、教科書は殆どなく、ノート講義ばかり。授業中はノートをとるだけで、理解どころではなかった。参考書なんてものは全くといってよいほど無かった。現在の学生は情報の洪水で、勉強の的が絞りにくく大変な時代であると思う。学生の時、私は高木貞治先生の解析概論を見つけて、急に勉強しなくなったことを覚えている。この本はそれからずっと本箱の隅で早く読んでと私を待っている。定年後はゆっくりと解析概論や宗教の本でも読もうと計画したが、マニュアルばかり読んで、まだ計画は実行できず、その間に、脳の退化は刻々と進んでいる。

定年退職時に計画したことで、なんとか及第点をやるのは、トランプのブリッジとハイキングぐらいである。ある日

川崎重工の元副社長のNさんより手紙を頂戴したのがブリッジへの誘いであった。Nさんは超エリート校出身であるが人柄の良さが文面ににじみ出ており、こんな立派な手紙をいただいたのは、最初であり最後であった。毎週、三菱重工の元副社長さんら10人程で、神戸市の会館でプレイした。すべて定年組の老人ばかりであり、机や椅子の並び替えのような雑用までみんな協力して行うのである。トランプより、元大会社の役員たちの人柄に魅せられて、毎週楽しく神戸に通った。こんな人たちが日本の指導者であったら日本はもっと良くなったと思えてならない。

金剛山とか紀泉高原は度々歩いた。小鳥のさえずりを聞きながらの散歩は忘れられない思い出である。近畿には西国三十三観音寺参りがあるが、これも楽しい思い出ばかりである。ハイキングとタバコを止めたことが定年後に出来た傑作かも知れない。80歳になると目も耳も頭も皆老化しつつある。こんな人生ではあるが、遣り残したことは山程ある。解析概論も読みたいし、デジタルの世界も堪能したい。草花も咲かせたい。まだまだ死ねない。

平成 18 年 6 月 末 日

## 平成 18 年度分会費納入のお願い

同窓会費をまだお送りいただけていない方はできるだけ早く同封の振込用紙にて納入下さいますようお願い申し上げます。(平成18年8月末日現在で未納の方には請求書を同封しておりますのでご確認下さい。)

毎回催促がましくご請求申し上げ誠に心苦しいのですが、何分本会は皆様方からの会費のみで運営いたしております。なにとぞ御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

# 定年その後

外山 嵩

平成3年3月府大を定年退職して今年で15年になる。定年その後の15年について思いつくまま書くことにする。

定年の年に長年にわたって講じてきた講義を補筆して「船舶構造」として上梓した。これには細田教授をはじめ講座の皆さんにはいろいろお世話になった。本書は船舶工学の初学者のための教科書ないしは参考書として用いられることを意図して著したものであったが、時あたかも旧来の造船学が大学から姿を消す時期でもあり遂に日の目を見ることはなかった。いわば自己満足、一人よがりの所産に過ぎなかったと言えよう。

定年後は都会生活と田園生活を交々過ごすというのが夢であったから、紀州の田舎にある陋屋を退職金をはたいて改築し都会育ちの妻にも住めるようにした。田舎の生活は月並みには晴耕雨読ということになるが、私の場合は雨の日は読書よりもフルートを吹いていることが多いからむしろ晴耕雨笛と言った方がいいかもしれない。

フルートは今も時折吹いているがどうもマンションという狭いコンクリートの共同住宅では周囲に気がひけて思うように吹けない、その点田舎の一軒家では気兼ねなく吹けるからいい。この頃はピアノ伴奏からカルテットやコンチェルトまでフルートのカラオケCDがあるから、これらを適当につまみ食いして一人で楽しんでいる。

晴耕の方は、長年放置されて実生の木が生え茂り荒れ果てた広い庭の整備と30坪余りの畑を耕すことから始まった。庭の整備には数年を要したが今も四季おりおりのルーチンな庭仕事に追い回されている。庭木の剪定は時期を失して

はいけない、例えばツツジを丸く刈り込むのは花後すぐであるとか、松の剪定は時期もさることながら多大の労力と技術が要ることなどであるが、幸か不幸か我が家の松は大半が松食い虫にやられて一本しか残っていないので助かるというものである。そのような訳で昔の枯山水の庭を復元することは到底無理だが一応庭らしい格好を保つためだけに相当な努力が必要であると思われ知らされた次第。

畑仕事の方は最初のうちこそ張り切っているいろいろな作物を試みたが、これも季節に追われ天候に左右されて思うように行かず、そこへもってきて内外の旅行、ダイビング、最近では医者通いも加わって、最初標榜していた都会半分田舎半分の生活は何処へやら今や月の内一週間田舎へ行くのがいいところということになってしまった。従って梅の収穫が遅れて実が皆落ちてしまったり、タケノコが竹のなっていたり、キャベツが虫に食われて蚊帳のようになっていたりするのも致し方ないことである。今でも春と秋の農繁期には出来るだけ都合を付けて行くようにはしているのだが。

定年後始めた海外旅行は行けるうちに行かないとという強迫観念にかられた訳でもないが、ほぼ年二回のペースで出かけている。北米、中米、ニュージーランド、豪州にも行ったがこの頃はヨーロッパに行きが多い。スイスの自然が気に入ってアルプス・ハイキングなど何回か行っている。最近はやりのクルーズは10万トンの巨大客船のカリブ海クルーズも悪くなかったが、小さな船でヨーロッパの河川、運河を巡る船旅はホテルからホテルへの移動、面倒な荷造りもなく居ながらにして名所旧跡を巡ることが出来て年寄りにはお

勧めである。エルベ河、ローヌ河、オランダの運河、ライン河、モーゼル河そしてドナウ河と河クルーズを重ねて来たが、サンデッキの椅子に座って次々と現れる古城、古い町並み、教会の尖塔、葡萄の段々畑など眺めて暫し時のたつのを忘れるのである。

定年前から始めたダイビングは、ノンダイバーの友人達から”もういい加減に止めたらどうか”と忠告されるこの頃だが、ダイバー仲間のまだまだイケルという甘言にのって続けている。さすがに昔のようにグレートバリアリーフやパオ、シバダンなど海外へ行って一日に5本も6本も潜ったようなハードなダイビングはとても出来ないが、ここ数年は20年来通い慣れた座間味へ連休明けと秋に行くことにしている。座間味島は大小の島々からなる慶良間諸島の中心で、



付近に美しい珊瑚礁と変化に富んだ地形に恵まれた抜群の透明度を誇るポイントが数多く、荒々しく雄大な外海でマンタやイソマグロを追い求めるのも可能ならば、穏やかで波静かな内海でカクレマノミやカラフルなウミウシをデジカメに収めるのも可能であり、我々老人がゆっくり、のんびりダイビングを楽しめるポイントにも事欠かない。ダイビングについて書き出したら切りがないからこの辺で止めるが、私が中々ダイビングから足を洗えない訳が少しは分かって頂けたらどうか。

最後に最近の私の日常生活を報告して筆を擱くこととする。週に3日程度近所のスポーツクラブへ通って、マシンジムで1時間ばかりバイクをこいだりマシンをやる他週1回プールで小1時間泳ぐことを日課としている。家では本を読んだり音楽を聴いたりするが、けっこうPCの前に座っている時間が長い。メールのやりとり、メルマガ、インターネット、それに色々なメーリングリストのメンバーになっているから、それも読まねばならないし(読むだけで contribution なしは申し訳ないと思っているが)時間のたつのを忘れる。

「鷗朋」第10号への原稿募集・・・ご自由なテーマでお書きください！

- ・仕事や趣味について、大学時代の思い出等、テーマは問いません。
- ・原稿は、郵便(原稿用紙やフロッピーディスク)、ファックス、電子メールなどでお送りください。
- ・分量については、柔軟に対応します。写真やイラストつきの原稿も大歓迎です！

締めきり：平成18年12月末

宛先：〒599-8531 堺市中区学園町1-1  
大阪府立大学大学院工学研究科  
海洋システム工学分野気付 鷗朋会事務局  
TEL/FAX: 072-254-9914  
E-mail: doso@marine.osakafu-u.ac.jp

**「鷗朋」編集ボランティアを募集しています！**

原稿テーマの企画など、より良く、楽しい「鷗朋」にするために、あなたの力をお貸し下さい！

ご協力頂ける方がおられましたら、自薦他薦問わず、鷗朋会事務局までご一報を・・・

## ゴルフボールが教えてくれる漂流・漂着ゴミの源

細田 龍介

近年、地球温暖化、海洋汚染等の地球規模の環境悪化に対する世間の関心がだいたい高まって来たことは喜ばしいことである。しかし、環境問題は我々の身近なところで深刻化していることを忘れてはならない。例えば、人口の集中した沿岸都市部において家庭から排出される下排水やゴミの処理・処分についてもっと注意を払って欲しいと考える。家庭下排水は、下水処理場で処理されて河川を通じて海域に流入するが、一見清浄に見える処理済み下水には高濃度の窒素、リン化合物が溶けこんでおり、これが海域の水質悪化に繋がっていることを忘れないで欲しい。

今ひとつの問題であるゴミも、収集されたものは処理場で焼却され、埋立処分されているのが実態である。大阪湾の新島の多くは我々の家庭から出るゴミによって出来上がっていることも忘れないで欲しい。収集・処理されるゴミに関しては海域に流れ出ることは殆どないと考えられるが、現在大阪湾上を漂流するゴミの量はどれ位あるのか、そしてその源は、さらにどのような経路をたどってどこに漂着するのかを知っている人は少ないであろう。

筆者はこの10年間月に1回以上淡路島の最南端、大阪湾の入り口に位置する洲本市由良および由良湾、成ヶ島を訪ね続けている。由良湾は大阪湾湾奥部に比べて水質は良好であり、由良地区の前に存在する成ヶ島は自然海岸の残る30ha程の小島で、海浜植物・海岸動物の宝庫である。まさに大阪湾の宝島と言って過言ではない。しかし、この成ヶ島は別の意味でやはり宝島(ゴミの宝庫?)と言わざるを得ない。成ヶ島海岸に漂着するゴミの量は並外れて多く、この10年間減るどころか増え続けているように思われる。10

年間の変化と言10年前には1.5リットルのペットボトルしかなかったが最近では500ミリリットルのものが主流となったくらいである。この島のゴミを詳細に調べれば人々の生活様式の変化を知ることができると思ったこともしばしばある。通常でも海岸線には大量のゴミが流れ着き、絶えず清掃しなければ多くの動植物が死の危険にさらされるのが現状である。特に、台風の後などは膨大な量のゴミがハマボウの根元や、ハマゴウに覆い被さって堆積する。幸い、地域の有志や由良中学校生徒諸君の長年にわたる清掃活動によって多くの貴重種を含む海岸植物はかろうじて生きながらえているのが現状であるが、大阪・神戸を初めとする大都市およびその周辺に住む人々はこの事実を殆ど知らないであろう。さらに、地域の人々のたゆまぬ努力によってしばらくどこかに避難していたと思われるハクセンシオマネキが戻って来、嘗ては臭くて口にすることもできなかったアサリが大量にとれるようになった。特に、最近各地で盛んに移植したり、播種したりされているアマモが技術の導入なしに由良湾内に繁茂する状態となったこともあまり知られてはいないであろう。これらは総て、地域の人々の自然との「対話」の結果であり、最近よく耳にする「共生」の見本と言っても過言ではない。

成ヶ島の清掃を十数年に亘って続けている「成美会」(国立公園成ヶ島を美しくする会)会員に漂着したゴルフボールを集めてもらい、そこに記されている名前をインターネットを通じて調査したところ付図に示すような結果を得た。これは、犯人捜しが目的ではなく、ゴミが何処から流れてくるのかを知る一つの指標として調べたものである。その結果、成ヶ島

に漂着するゴミの源は遠くは岡山県、香川県であり、多くは大阪湾沿岸域から河川を通じて流れ出しているらしいことが見えてきた。即ち、普段環境に大いに関心を寄せている筈の人達が何気なく放置したペットボトルや家庭で不用となったプラスチック類その他の生活系ゴミが潮汐とともに大阪湾を漂い、徐々に南下して成ヶ島に漂着するのである。筆者らのシミュレーションによれば約 2~3 週間で成ヶ島に到達することが予想される。

最近、あちこちで NPO 主催の海岸清掃、ゴミ調査などが

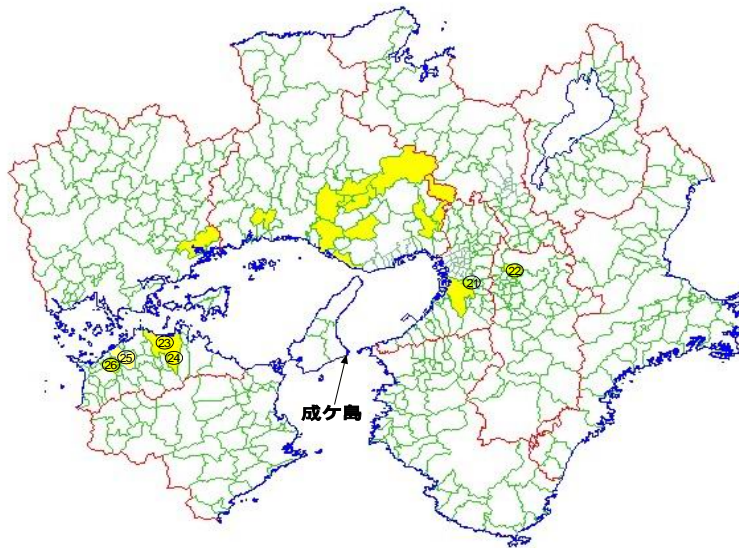
行われているが、漂着ゴミの真の姿を詳しく知った上で活動して欲しいと思う。成ヶ島にも時々、ボランティアグループが清掃に来ることがあるようであるが、集めたゴミの処理、海浜植物の保護、注射器等の危険ゴミの存在等を考えるとあまり勤めることもできない。

ゴミに関しては、清掃することが主に考えられているが、元を絶たなければいつまでも解決できない問題である。官民一体となって元を絶つ方法を策定して欲しいと思う。

(細田龍介 記 12/2005, 改 7/2006)

## 成ヶ島漂着ゴルフボールはどこから??

(April 2006)



- ①: 備前市 (備前水上ゴルフセンター)
  - ②: 龍野市 (追分けゴルフクラブ)
  - ③: 龍野市 (相生水上ゴルフセンター)
  - ④: 加西市 (加西水上ゴルフ)
  - ⑤: 加西市 (ゴルフセンター夏見池)
  - ⑥: 加古川市 (2号線ゴルフセンター)
  - ⑦: 加古川市 (加古川水上ゴルフ練習場)
  - ⑧: 加古川市 (神吉大池水上ゴルフセンター)
  - ⑨: 明石市 (大久保水上ゴルフセンター)
  - ⑩: 三木市 (オリエンタルゴルフクラブ)
  - ⑪: 西脇市 (西脇水上ゴルフ)
  - ⑫: 滝野町 (滝野水上ゴルフセンター)
  - ⑬: 社町 (タイヨウゴルフインヤシロ)
  - ⑭: 篠山市 (丹南水上五ゴルフクラブ)
  - ⑮: 宝塚市 (宝塚水上ゴルフクラブ)
  - ⑯: 川西市 (川西水上ゴルフクラブ)
  - ⑰: 能勢町? (アートレイクゴルフクラブ??)
  - ⑱: 堺市 (鶴田池ゴルフセンター)
  - ⑲: 堺市 (大座間池ゴルフプラザ)
  - ⑳: 堺市 (原池水上ゴルフセンター)
  - ㉑: 松原市 (大海ゴルフセンター)
  - ㉒: 大和郡山市 (椎木水上ゴルフクラブ)
  - ㉓: 高松市 (平池ゴルフセンター)
  - ㉔: 高松市 (木太 G.C.)
  - ㉕: 丸亀市 (共栄ゴルフクラブ)
  - ㉖: 善通寺市 (鳥坂 G.C.)
  - ㉗: ??? (SGC)
  - ㉘: ??? (TAIYO G)
  - ㉙: 愛媛県宇和郡? (レイクゴルフ)
  - ㉚: ??? (オーシャンウォーター)
- } 所在不明

## 鵬朋会(旧大阪府立大学船舶工学科同窓会)第7回総会報告

記録:会務担当大塚耕司(大学35期)

大型連休の初日でもありました2006年4月29日(土)、大阪府立大学学術交流会館において鵬朋会第7回総会が行われました。

午後からの講演会、総会に先立ち、午前中には理事会が開かれました。議題の中心は新会長の選出で、2001年の春から5年に渡って会長を務められた増田征二氏(大学10期)が勇退され、代わって前副会長の定兼廣行氏(大学15期)が第7代会長に選ばれました。また新副会長には、前編集委員長の岩崎康典氏(大学20期)、ならびに前会計担当理事の池田良穂氏(大学21期)が選ばれ、新たな編集委員長には三宅成司郎氏(大学30期)が選ばれました。

午後の講演会では、府立三大学の統合と大学の法人化という大きな変革の直後ということで、学内理事である奥野武俊前副会長(大学17期)により「公立大学法人大阪府立大学の誕生と今後の方向性」と題した講演が、同じく学内理事の大塚耕司氏(大学35期)により「海洋システム工学科における最近の教育研究活動」と題した講演が行われました。また、池田良穂氏(前出)からは「欧州における新しい海事産業の復興」と題した講演が行われました。奥野氏の講演では、府立三大学の統合と現在の工学部・工学研究科の体制について紹介されるとともに、法人化に伴って、大学教員に「教育サービスの品質管理・向上」が求められるようになったこと、同時に学生の意識も

大きく変わったことなどが、面白く、わかりやすく説明されました。続く大塚氏の講演では、1991年の工学部再編(このとき船舶工学科が海洋システム工学科へと改変)前後から現在に至るまでの学科の教育・研究体制の改革のプロセスが、様々なエピソードを交えて紹介されました。池田氏の講演ではがらっと話題が変わり、斬新で付加価値の高い船を続々と建造している欧州の造船業界と、クルーズを中心に目覚ましい発展を遂げている海事産業の現状と将来展望について、多くの写真と最新のデータを使って説明されました。

一息ついたところで本番の総会を迎えました。まず最初に会長交代の件が報告され、増田前会長と定兼新会長の挨拶が行われました。名誉会員ならびに新体制の役員、委員のご紹介の後、岩崎新副会長が議長に選ばれました。報告事項では、平成8年に開催した第5回総会以後の経過報告、会計報告、監査報告が行われ、総会の閉会が告げられた後、学術交流会館の玄関先で記念撮影が行われました。

総会の後はお待ちかねの懇親会です。定兼会長の挨拶で賑やかな宴の開幕となりました。懇親会場には、現在海洋システム工学科で行っている研究内容を紹介するポスターが掲示され、担当学生も混じってあちこちでホットな議論が交わされました。同窓生の方々も、大学院生が一生懸命作ったポスターを見ながら、「昔では考えられなかったような研究をやっ

ているなあ」としきりに感心しておられました。また、増田前会長と、これまで事務局として長年お世話いただいた前川めぐみ様への、感謝状贈呈も行われ、盛りだくさんで楽しい1日が終わりました。

(左 第7回総会記念写真)

